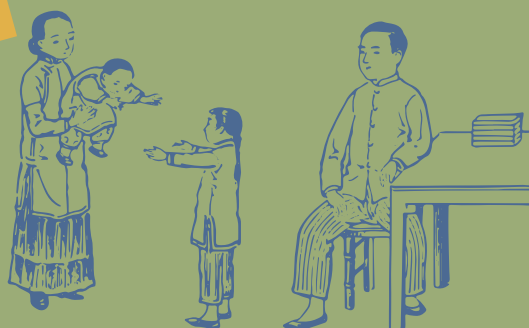


歴博国際シンポジウム

# 近現代 東アジアの 文化基盤

Cultural Basis in the  
East Asian Modern History



## 2020 3.21 [sat]

【会場】東京大学駒場キャンパス 18号館ホール（1階）

定員／170名 先着順（対象／研究者、学生、一般可）

使用言語／日本語・韓国語・中国語（逐次通訳あり）

【主催】国立歴史民俗博物館

【共催】朝鮮史研究会 東京大学大学院総合文化研究科グローバル地域研究機構韓国学研究センター

【協力】科研基盤（C）19K02493「帝国日本における学校儀礼教育の歴史：声・音の検討を中心に」



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国立歴史民俗博物館  
National Museum of Japanese History

朝鮮史研究会



東京大学大学院 総合文化研究科  
グローバル地域研究機構 韓国学研究センター

## プログラム

定員／170名(対象／研究者、学生、一般可)  
使用言語／日本語・韓国語・中国語(逐次通訳あり)

- |       |         |                                                                               |
|-------|---------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00 | 挨拶、趣旨説明 | 樋浦郷子 (Hiura Satoko) (国立歴史民俗博物館)                                               |
| 10:20 | 発表 1    | 丁世絃 (Jeong, Sehyeon) (国立慶尚大学校慶南文化研究院 / 韓国)<br>「日本植民地期における韓国の漢文教育の変化」          |
| 11:15 | コメント    | 禹龍濟 (Woo, Yongje) (国立ソウル大学校 / 韓国)                                             |
| 11:50 | 休憩      |                                                                               |
| 13:00 | 発表 2    | 吳成哲 (Oh, Seongcheol) (国立ソウル教育大学校 / 韓国)<br>「近代以後韓国書堂教育の社会的意味」                  |
| 13:55 | コメント    | 八鍬友広 (Yakuwa Tomohiro) (東北大学)                                                 |
| 14:30 | 発表 3    | 陳培豊 (Chen, Peifeng) (国立中央研究院台湾史研究所 / 台湾)<br>『同文異夢』の台湾、中国、日本——台湾における漢字漢文の戦前戦後」 |
| 15:25 | 休憩      |                                                                               |
| 15:35 | コメント    | 三ツ井 崇 (Mitsui Takashi) (東京大学)                                                 |
| 16:00 | 総合討論    | ファシリテーター 木村直也 (Kimura Naoya) (立教大学)                                           |
| 16:30 | 閉会      |                                                                               |



本シンポジウムは人間文化研究機構における「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」により実施します。

### 丁世絃 Jeong Sehyeon

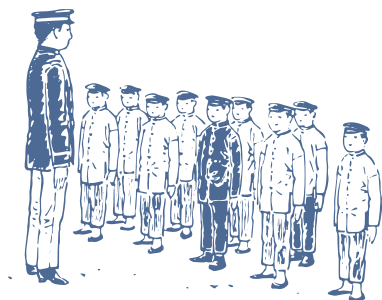
関西大学大学院東アジア文化研究科博士課程修了(文化交渉学博士)。2015年から同志社大学講師。現在韓国の慶尚大学慶南文化研究院南冥学研究所特別研究員。専門は植民地期における儒教、漢文教育、儀礼。共著に『渋沢栄一は漢学とどう関わったか』(ミネルヴァ書房、2017年)がある。

### 吳成哲 Oh Seongcheol

ソウル大学大学院教育学博士課程修了後、『1930年代韓国初等教育研究』で博士号を取得。国立清州教育大学助教授を経て、2003年国立ソウル教育大学教授。専門は教育の歴史社会学、近現代教育史。著書に『植民地初等教育の形成』(韓国教育科学社、2000年)、『近代東アジアの学生文化』(韓国西海文集、2018年)などがある。

### 陳培豊 Chen Peifeng

1997年東京大学大学院総合文化研究科博士課程(地域文化専攻)修了。博士(学術)。国立成功大学台湾文学系副教授を経て、国立台湾中央研究院台湾史研究所研究員。専門は言語・社会・文化・日本語の思想史。著書に『「同化」の同床異夢—日本統治下台湾の国語教育史再考』(三元社、2010年)、『日本統治と植民地漢文—台湾における漢文の境界と想像』(三元社、2012年)、『歌唱台湾—連続植民統治下の台湾語流行歌の変遷』(2020年予定)がある。



**問合せ先** 国立歴史民俗博物館 研究協力課 企画・渉外係  
〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地  
TEL: 043-486-4206

### 東京大学駒場キャンパス 18号館ホール



# 歴博国際シンポジウム 近現代東アジアの文化基盤 Cultural Basis in the East Asian Modern History